

福岡・大宰府条坊跡

1 所在地 福岡県太宰府市大字通古賀字半田

2 調査期間 一九七九年(昭54)十二月～一九八〇年二月

3 発掘機関 太宰府市教育委員会

4 発掘担当者 山本信夫

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 奈良・平安時代(八世紀前半～一〇世紀)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

木簡は条坊第二次調査・推定右郭七条七坊南西部の溝二SD〇〇

一から出土した。



(太宰府)

この溝はL字形に流れる溝と思われ、西側および南側に延びる。幅は三・五m、深さは〇・七m。埋土は上層・下層・最下層からなり、下層は有機質層で木簡ほか多数の木製品などを包含する。遺物は上・下層に多く、最下層には殆ど含まれてい



(山本信夫)

ない。土師器、須恵器、墨書土器〔南〕〔元〕〔十カ〕、木製品(錐柄、手斧着装柄、鳴鏑?、丸木弓、舟形などの工具、武器、祭祀用具)、昆虫の羽根、植物種子・葉などがある。土器の年代は八世紀前半～中頃で、上層は八世紀中頃には埋没したと思われる。なお、溝の周辺部は未発掘のため、全体的な遺跡の性格については明確ではない。

8 木簡の积文・内容

表裏両面に墨書されるが判読は不可能である。上下左右は破損し原形は判明しない。

9 関係文献

太宰府町教育委員会『大宰府条坊跡 太宰府町の文化財第五集』(一九八二年)